



温室効果ガス (GHG) 排出量 の 情勢

主要用語集



企業が ESG (環境、社会、ガバナンス) の複雑な要求に直面するアシュアランス 4.0 の時代においては、温室効果ガス (GHG) 排出量の管理がこれまで以上に重要なものとなっています。

LRQA は数十年におよぶ部門別の専門知識、現地でのプレゼンス、およびデータ主導の洞察力を組み合わせて、各組織が自らの GHG による影響を管理できるよう支援します。

この用語集は GHG の検証と脱炭素化を中心にした 50 件以上の主要用語を定義し、環境上のコンプライアンスと透明性の実現に向けた LRQA の包括的アプローチを明らかにするものです。



主要用語

- 追加性:** プロジェクトによる排出量削減が通常の状況下で生じたと思われるものを上回ることを確保する状態。
- アナリティクス:** GHG 排出量や環境への影響に関連するデータを収集、分析、解釈するプロセス。高度のアナリティクスにより、組織は自らの排出パターンに対する洞察が得られ、改善分野を特定し、GHG 削減戦略を最適化して規制要件を満たすための情報に基づいた意思決定を行うことができる。
- ベースライン排出量:** 経時的に排出削減量を測定するためのスタート地点。通常は過去データに基づいて設定される。
- 生物由来の排出量:** 植物や動物の腐敗等の自然由来の排出量。化石燃料による排出量と区別されている。
- 炭素会計:** 組織の活動による GHG 排出量を測定し追跡するプロセス。
- 炭素国境調整メカニズム (CBAM):** EU が炭素漏洩を防ぐため、そのカーボンフットプリントに基づいて輸入品に炭素価格を課するという方策。
- カーボン・バジェット:** 地球温暖化を 1.5°C などの一定閾値未満に保ちながら排出することが可能な GHG の最大排出量。
- 二酸化炭素回収・貯留 (CCS):** 工場などの発生源から CO₂ 排出量を回収して地下に駐留する技術。
- カーボンクレジット:** クレジット所有者には特定量の GHG 排出を認める許可。カーボン市場で取引することができる。
- 二酸化炭素換算 (CO₂e):** 様々な GHG の影響をその地球温暖化への潜在能力に基づいて標準化する測定基準。
- カーボンフットプリント:** 事業体や製品またはサービスに直接、間接に関連する GHG 排出量の総量。
- 炭素強度:** 成果物単位当たり排出された GHG 排出量。エネルギー効率を測定するのによく使われる。
- カーボンニュートラル:** 排出量を除去量や相殺分と差し引きすることで排出量ネットゼロを達成すること。
- カーボンオフセット:** ある組織による排出量を埋め合わせるために用いられる、組織外での排出削減。
- 炭素隔離:** 森林再生のような自然のプロセスか、またはテクノロジーのいずれかにより、CO₂ を回収して貯蔵するプロセス。
- CDP 報告:** 各組織が GHG 排出量を含めて LRQA が検証した環境データを報告する世界的な開示システム。
- 循環型経済:** 資源を継続的に再利用することで廃棄物を無くすことを目指す経済システム。
- 気候変動開示基準審議会 (CDSB):** 気候関連の財務データ開示において企業の指針となる枠組み。
- 企業サステナビリティ報告指令 (CSRD):** GHG 排出量を含め、持続可能性に関する広範な報告を義務づける EU の規制。
- データ品質評価:** 排出量データが検証目的にとって正確かつ完全で、信頼できるような品質を確認する作業。
- 脱炭素化戦略:** エネルギー効率や再生可能エネルギーの利用といった措置を含め、組織のカーボンフットプリントを削減するための計画。
- 直接排出:** その組織が所有もしくは管理するものに由来する排出 (スコープ 1 としても知られる)。
- EiQ:** 世界初のエンド・ツー・エンドのサプライチェーンデューデリジェンスソフトウェア。LRQA のサプライチェーン管理ソフトウェア EiQ は、サプライチェーンの ESG リスクをリアルタイムで監視・管理し、責任ある調達プログラムを強化し、デューデリジェンスの規制遵守をサポートする。
- 排出係数:** 燃料の燃焼など、所定の活動による GHG 排出量を算出するのに用いられる係数。
- 環境、社会、ガバナンス (ESG):** 会社の倫理および持続可能性の実践を評価する一連の基準。
- 外部報告:** GHG 排出量について外部の利害関係者または CDP のような情報開示メカニズムや規制機関へ報告すること。
- フュージティブ・エミッション:** パイプラインやバルブといった設備の漏れにより生じる意図しない排出量。
- GHG プロトコル:** GHG 排出量を測定し報告するため、広く用いられている国際的枠組み。

29. 地球温暖化係数 (GWP) :CO₂ と比較して、特定の期間にわたり各 GHG が大気中にどれだけの熱を閉じ込めるかの尺度。

30. 温室効果ガス (GHG) :二酸化炭素 (CO₂) やメタン (CH₄)、一酸化二窒素 (N₂O) など地球温暖化の一因となるガス。

31. ヒグ FEM:ヒグ施設環境モジュールのことで、GHG 排出量など製造における環境の持続可能性を測定するためのツール。

32. 間接排出 :組織の活動の結果生じるが、その直接管理外で発生する排出。(スコープ 2 およびスコープ 3 としても知られる)

33. ISO 14064:組織レベルで GHG 排出量を定量化して検証するための国際規格。

34. ISO 14067:製品のカーボンフットプリントの検証に焦点を当てた国際規格。組織がライフサイクル排出量を評価するのに役立つ。

35. ISO 14068:カーボンニュートラル達成を目指す組織にとって手引きとなる国際規格。

36. ライフサイクルアセスメント (LCA) :製品のライフサイクルにわたる環境への影響を評価する方法。製品のカーボンフットプリント算出に欠かせない。

37. 限定的保証:報告される GHG 排出量のデータの正確性において、その検証人が信頼性を中程度とする検証の案件。限定的保証は合理的保証に比べて細かい手順が少なく、初回の情報開示やその組織が精査のレベルを下げたいという場合に用いられるのが一般的である(「合理的保証」も参照のこと)。

38. マテリアリティ:どの排出量データが重要で、報告の際に優先すべきかを特定するための概念。

39. 緩和:気候変動を抑える目的で、GHG 排出量を削減または防止するために取られる対策。

40. ネットゼロ:GHG 排出量をできるだけゼロに近づくまで削減しつつ、残る排出量は相殺させて影響を打ち消すこと。

41. 組織の GHG およびカーボン検証 :ISO 14064-1 などの基準を遵守するための、組織の GHG 排出量データの検証。

42. PAS 2050:製品やサービスのライフサイクル GHG 排出量を評価する基準。

43. PAS 2060:カーボンニュートラルを達成し証明するための要件を設定する基準。

44. PAS 2080 (持続可能なインフラストラクチャー) :建設における GHG 排出量削減を目指し、インフラストラクチャーにおける炭素を管理するための基準。

45. ギャップ分析:GHG 検証に対する組織のデータやプロセスの準備状況を評価するサービス。

46. 製品のカーボンフットプリント:原材料の採取や製造から販売、使用、廃棄まで、製品のライフサイクルにわたって生み出される温室効果ガス (GHG) の総排出量。

47. 合理的保証:信頼性が最も高いレベルの検証。GHG データが徹底的に調査されていることを保証(「限定的保証」も参照のこと)。

48. 再生可能エネルギー証書 (RECs) :再生可能な資源からエネルギーが供給されていることを証明する証書。

49. 残余排出量:実行可能なあらゆる削減の取り組みが実施された後に残る排出量。

50. 科学的根拠に基づいた目標:気候学に合致し、地球温暖化を抑制するのに役立つ排出削減目標。

51. スコープ 1、2、3 の排出量:

- スコープ 1: その組織が敷地内で管理する排出源に由来する直接排出量。
- スコープ 2: 組織境界内で使用される購入した電気、熱、蒸気による間接排出量。
- スコープ 3: 組織境界外で発生する、サプライヤーや消費者を含むバリューチェーン全体にわたる間接排出量。

52. 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) :LRQA が検証した気候変動に関連する財務上のリスクを開示するための枠組み。

53. GHG データ検証:GHG データについて、その正確性や基準の遵守を確認し、報告の信頼性を強化するための独立したプロセス。

LRQAと提携する理由



現地での専門知識

世界中に 800 人以上の ESG の専門家を擁する LRQA の専門知識は、GHG データ検証や脱炭素化の微妙なニュアンスを組織に指導し、150 カ国以上の複雑な課題を支援しています。



継続的保証

LRQA は、排出量、エネルギー使用量、サステナビリティへの取り組みを継続的に追跡・報告することで、組織が環境目標を達成し、進化する規制を遵守するための戦略調整を支援しています。LRQA の EiQ プラットフォームから得られた洞察は、30 以上のグローバルブランドのサステナビリティ報告書で引用されています。



ソリューションベースのパートナーシップ

LRQA はお客様と協力し合いながら、コンプライアンスにとどまらず持続可能な成長を促すソリューションを提供します。当社のグローバルチームは世界中の企業と密接に協力しながら LRQA はお客様にとって妥当な結果を出すことに全力で取り組んでおります。



データ主導の意思決定

LRQA の先進的なアナリティクスプラットフォームである EiQ は、GHG 管理に役立つデータ主導の洞察力をもたらします。独自データを活用する EiQ により、お客様はサプライチェーンにわたる GHG 関連リスクを追跡し、分析して軽減させることができ、事業目標や法的基準に沿って情報に基づいた効果的な意思決定を保証できます。

LRQA は GHG 排出量の管理を進めるあらゆるステージにおいて、組織をサポートするために包括的なサービスを幅広く提供します。

[詳細を確認する →](#)



LRQAについて

LRQA は、審査、アドバイザリー、検査、サイバーセキュリティサービスにおける数十年にわたる比類のない専門知識を結集し、データ主導の洞察に裏打ちされた、世界有数のアシュアランスパートナーです。お客様の最大の経営課題の解決を支援します。

150 カ国以上で事業を展開し、5,000 人以上のスタッフを擁する LRQA では、コンプライアンス、サプライチェーン、サイバーセキュリティ、ESG の定評ある専門家が、世界各地のほぼすべての業種にわたる、60,000 社を超えるお客様のリスクの予測、軽減、管理を支援しています。

LRQA はあらゆる活動において、従業員、お客様、地域社会、そして地球環境のために、より良い未来を形作ることに全力を尽くします。

お問い合わせ

詳細については、<https://www.lrqa.com/ja-jp/> をご覧ください。



LRQA リミテッド
〒220-6010
横浜市西区みなとみらい 2-3-1
クイーンズタワー A10 階